

「道州制と広域関係を考える講演会」 (津山会場)

開催日 平成 22 年 2 月 18 日

場 所 津山鶴山ホテル

◆事例発表

演 題：「中四国特産品展示イベント 『海の市・山の市』」

発表者：高見 智 氏

皆さん、こんにちは。真庭市産業観光部商工観光課の高見と申します。主に観光の仕事をさせていただいております。道州制につきましては、政権交代で急ブレーキが掛かっているようですが、観光に関しましては、単独の自治体だけで頑張っているという、そういう時代ではないと思っております。

本日は長期にわたる広域的な取組の事例として、真庭市最大のイベントであります「海の市・山の市」のご紹介をさせていただきます。

皆さま方には、お手元にありますけれども、真庭市のできたてのパフレットを数種類お配りしておりますのと、「海の市・山の市」の概要を載せたものをお手元に配らせていただいております。お持ち帰りになってから、ご参考にしていただければと思います。主には前のスクリーンの方で説明をさせていただきます。

真庭市は津山市のお隣でございます。平成の大合併により、平成 17 年 3 月 31 日に 9 か町村により合併いたしました。北は鳥取県に接し、東西 30km 南北 50km、面積は 828 平方キロとなり、岡山県で一番広い自治体となっております。現在、木材をエネルギーとしての新しい可能性を目指して取り組んでいる「バイオマスタウン」でもございます。

真庭市の概要についてご説明を致します。真庭市は合併して 5 年目になりますけれども、人口は昨年 12 月の数字で 51,411 人でございます。交通についてです。ここが本日の事例発表の大きなポイントとなっておりますけれども、3 つの高速道路がクロスしております。中国自動車道、米子自動車道、岡山自動車道です。そして、市内には、5 つのインターチェンジがございます。どれだけ広いのかお分かりいただけたらと思います。そして JR 姫新線が東西に走っております。南北 50km の長い地域の特徴でございますけれども、北部は蒜山高原、津黒高原が広がる酪農、農業、そして観光が盛んな地域となっております。その南、中部には、出雲街道の宿場のたたずまいなどを残しております。林業、そして湯原温泉などの観光が盛んな地域となっております。南部は行政、文化、医療機関が集中した市街地となっております。

北部では雪が降るために、現在 3 つのスキー場がございますが、北は雪が降っていても、南はぽかぽか陽気の小春日和といったようなことも度々ございます。北と南では、言葉が違っているのも大きな特徴でございます。津山あたりでも、「何とかじゃ、何とかじゃ」というふうに言いますが、あの北の方は「何とかだ、何とかだ」というふうな違いがございまして、非常に特徴的なものだと思っております。

次に「真庭市総合計画」という硬い話になりますが、私たちはこういうものに基づいて仕事をしているわけですが、この中に「観光回廊真庭の振興」というのがございます。町づくりの基本理念や将来像を実現するため、基本計画で5年間で取り組む施策のうち、特に重要性和緊急性のあるものの一つとして位置づけられております。ポテンシャルの高い観光素材を、点から線、線から面へとつないでいき、さらに地図を広げたときに、真庭も一つの点となりまして、山陰、四国、関西、広島、さらには九州へとつなぎ、連携した広域観光も視野に入れて取り組んでいくというものです。

「観光回廊真庭」というのは何かということですが、真庭市の将来目標であります「賑わいと安らぎの杜の都 真庭」を実現していくため、真庭市内にそれぞれの地域で育まれてきた個性や魅力にさらにみがきをかけ、いろいろな色のきらめきを放っていく。それらを点から線、線から面へと回廊として結び、各エリアが一体となってステンドグラスのように美しく調和して輝き、人情味あふれる暖かい地域空間が存在していると。それが「観光回廊真庭」の姿でございます。勝山の町並み保存地区にお越しただけであれば、なるほどこういうことなのかなということを感じていただけるものと思います。

それでは本題に入りますけれど、このイベントの開催場所は、米子自動車道蒜山インターチェンジから約5分の所にあります。昨年で14回目でしたが、開催当初からの趣旨はほとんど変わっておりません。高速道路が完成したことを契機に、物的交流、人的交流を促進するというので、経済を活性化させようというのが趣旨です。運営は、構成団体による実行委員会を組織して実施しています。また、当イベントは次の3つから構成されておりまして、特産品の販売や地元真庭市の郷土芸能などを紹介したり、大人から子どもまでみんなが楽しめるステージイベント、そして観光情報や動物とのふれあい体験が出来るスペースとなっています。

1997年3月（平成9年）に、3つの高速道路がつながったと申し上げましたが、中国横断自動車道が全線開通し、日本海から太平洋を結ぶ南北の連携軸が完成したわけです。

2、3年くらい前からB級グルメとかご当地グルメという名前を聞くようになりましたが、15年前から開催しております「海の市・山の市」は、まさにこのご当地グルメフェアであったわけです。太平洋のカツオのたたき、瀬戸内海のタコのとんぷら、日本海の海鮮チヂミと、日本海から太平洋までのご当地グルメが大集合のイベントだったわけです。この写真は昨年のものですけれども、最近は市外からIターンされてお店を経営される方も増えてきております。左の下の写真はうどんですけれども、香川県で讃岐うどんの店を経営されていた方が、蒜山が大好きだということで移り住んでこられました。その讃岐うどんの店ですが、地元のために頑張っている「ひるぜん焼きそば好いとん会」というのがありまして地域おこしをしているのですが、それに共感されてその会に入会されました。タレも自分の所で作られまして、うちの焼きそばが一番うまいということで頑張っておられます。右下の写真は、茶粥のお店「ひるぜん」です。これも大阪から蒜山に移って来られた方の出店でした。

そして最近やたらと話題のB級グルメです。きのうもRSKの『VOICE21』でこちら津山でイベントがあることを特集していらっしゃいましたが、「津山ホルモンうどん」は全国でナンバー3です。それから、美咲町の「たまごかけごはん」もすごく有名になりましたし、後を追いまして「ひるぜん焼きそば」が、県北を代表するご当地グルメとなっております。

ます。昨年のふれこみは、ご当地グルメが大集合ということで、サブタイトルも「ご当地グルメがいっぱい!!」というような宣伝の仕方をしました。

始まった当初、落合の工業団地でこのイベントを開催したことがあるのですが、全く人が集まらなかったそうです。観光地でなければ集客はできないということから、それ以来蒜山高原ですべて開催してきました。しかし、今は「B級グルメ」とか「ご当地グルメ」という冠を掲げることで集客できるようになってきました。3月に津山で開催される「おかやまB級グルメフェスタ in 津山」は2日間で10万人の人出が予想されていると聞いております。ちなみに、昨年の来場者は7万人でした。その前の年が5万5千人という数字を発表しております。

今までの観光は景色や温泉を求めて、来たついでに何かおいしいものを食べて帰るといのがほとんどだったと思いますけれど、B級グルメやご当地グルメが注目されるようになったここ数年、観光が目的ではなくて、食を目的に訪れる人が急増しているようです。その代表的なものが、讃岐うどんではないかと思えます。この中の方も、讃岐うどんをほしごされた方がいらっしゃるのではないかと思えますが、私も二度三度と行っております。ですから、今は「食」は重要な観光素材となっていると思えます。行ったら必ずお金を落として帰ってくれるというような、とてもいいお客さまではないかと思えます。

県北のご当地グルメを回るツアーなども民間のツアー会社が企画しております、岡山発で、津山ホルモンうどん・ひるぜん焼そばを食べて、おみやげを買って帰る一日のツアーも動いているようです。さらには、山陰のカニとか、いま坂本竜馬で話題になっております高知の鍋焼きラーメンなどを結んでいけば、泊まり付きのツアーなどもできてくるのではないかというふうに思っております。これからどんどんそういうものが広がっていけばいいなと思っております。しかも、高速道路が無料化になるということで、さらに追い風になっていくのではないかと思っております。

「ひるぜん焼そば」も、津山の今度のイベントに参加させていただきます。相互交流を通してさらに連携を図っていきたくて考えています。しかし、真庭市だけでの思いでは実現しません。こういったイベントを通して、今までになかった交流を市民レベルで促進していくことが、最も大切ではないでしょうか。

このほかにも、伝統工芸品とか特産品の販売もあります。蒜山の郷原漆器とか勝山の高田硯、高原野菜やピオーネなどのフルーツ、そして4月に新しくその会場の近くに蒜山ワイナリーが新規にオープンいたしますが、その蒜山ワインの出店、それから地酒など、いろいろなものが特産品として並びます。普段ではなかなか手に入らない県外からの出品も多数ございまして、右上にあるのは、どぶろくです。高知県のどぶろく特区で作られたお酒で、なかなか普段では手に入らないものです。左下は「とうふ」と書いてありますが、これは鳥取県の「とうふちくわ」で、毎年B-1グランプリに出ておられるという、そういうところで作られたものです。出店に関しましては、どこでも売っている物の出店はお断りしております。その地域ならではの物しか受け入れていないのも、このイベントの大きな特徴となっております。市内の方から「自分にも出店させろ」と言われることもあるのですが、大きな露天のスーパーマーケットになっても何の意味もございませんので、それはお断りしております。

オープニングセレモニーはもちまきで始まるのですが、その前に実行委員会の副会長が、

「地域連携宣言」というものを行います。15年前から、地域連携宣言というものをするようなイベントは、ほかにはなかったのではないのでしょうか。この写真はステージイベントですが、オープニングセレモニーのもちまきの様子です。エンディングにももちまきはもう1回やるのですが、皆さん本当にもちまきは大好きです。各種ステージイベントがございます。これはももっちに登場してもらって、〇×クイズです。湯原温泉のペア宿泊券など豪華景品が当たる、そういうクイズイベントがあったり、地元の郷土芸能があったり、右下の写真は、岡山県から参加していただいて「おかやまグリーンバイオ・プロジェクト」のPRでございます。バイオエタノール10%を混ぜたガソリンで走るパジェロの紹介ということでした。本当は省エネ大賞を受賞されましたアイミーブに来ていただきたかったのですが、走行距離が130kmということで、岡山から蒜山に来ることができても帰れないということで、パジェロになりました。毎年、市外からの団体にも参加していただいて、盛り上げていただいております。おとしは「さわら連」の方にお越しいただきました。

そして、各種PRコーナーということで、ジャージー牛の乳搾りとか、「木材の町 真庭」ということで、木工教室、フラワーアレンジメント、右下は「とっとり梨の花温泉郷」という広域連合がありますけれども、そこから足湯にご参加をいただいております。

これは会場内の様子です。左上は、ヒメノモチで頑張っておられます新庄村の餅つきの実演で、その右の写真は、新庄村長が自らマイクを持参されまして、ヒメノモチのトップセールスを行われているところです。左下に妖怪がありますが、これは蒜山に昔から伝わる「すいとん（粹呑）」という妖怪です。ひるぜん焼そばはこの時初めて出店したのですが、久世高校の家政科の女子生徒がこの着ぐるみを作ってくれて、一緒に地元の食材を応援しようということで参加した時の写真です。

「ひるぜん焼そば好いとん会」のメンバーは、この日が本当に初めての出店でしたので、会のおじさんたちにとっては、朝から超ハイテンションな一日であったとお聞きしております。3月の津山でのフェアにも応援に来ていただけるということで、今からとても楽しみにしているおじさんたちです。ちなみに、この会場の広さですが、1.5ha ございまして、駐車場の収容台数が1,650台となっています。大きなイベントは、天候もちろんですが、場所の確保については特に重要なポイントになると思います。

運営は、実行委員会を設立して、経費はその構成団体の負担金で賄っております。今まで出店料はいただいております。年々参加団体が増えて、予算的に厳しい状況となっておりますが、なんとか経費節減を図りながら運営している状況です。そろそろ出店料をいただくという方向転換も必要な時期ではないかというふうにも思っております。ここ数年間の事業費は800万円です。事務局は真庭市産業観光部内で、総括は私どもの商工観光課、出店のとりまとめを農林振興課、ステージ関係をバイオマス政策課、というふうに役割分担してやっておりますが、この関係プレーがなかなか難しいところです。

変遷ということでみると、平成8年から県が主導で始まったイベントです。真庭地方振興局があった時代です。平成11年の開催のときには、「蒜山フェスタ99」という名称で行われていました。立ち上げ時期のその時の予算ですが、県が1,100万円で、9か町村と北房町も入りまして300万円、合計1,400万円の規模でした。出店数は44で、現在の約半分の規模でした。平成12年からは、そろそろ自分たちでやりなさいということで事務局が川上村となり、13年からは広域連合、そして合併した17年からは真庭市が事務局を担当

するようになりました。それに伴い負担金割合はだんだん変わってきておりまして、当初とは全く違う負担割合となっております。

現在はほとんど耳にしなくなりましたが、このころ「西日本中央連携軸推進協議会」という組織がありまして、高速道路で結ばれた中国・四国の、島根県、鳥取県、岡山県、香川県、徳島県、高知県の6県により構成されております。そしてその「西日本中央連携軸」の形成を推進するということでした。助成事業も行われておりまして、平成13年には「ふるさと交流宅配便」ということで、高知県須崎市で、蒜山の雪や湯原の湯を宅配して交流を促進するという取組が行われております。その後も交流が継続していきまして、小学生の親子が冬には高知からスキーや雪遊びに蒜山を訪れ、夏場は蒜山から高知へ、釣りやカヤックなどの海洋体験に出掛けて行って交流を行っております。そして、交流は現在も継承されております。

今後の展開についてですが、次回開催で15回目ということですが、また真庭市が誕生して5年が経過します。これを節目とした記念イベントとしたいということで、現在検討しているところです。今までは1日の開催でしたが、2日間開催してはどうかということで予算要求しているところがございますが、内容はまだ今後詰めていきますが、皆さま方にお声かけすることがあると思っておりますけれども、その時にはよろしくご協力をお願いしたいと思います。また、こういったイベントだけではなくて、さきほどもご紹介させていただきましたが、環境とか今のご当地グルメなどよそにはないいい材料があるわけですから、これを武器に、このエリアがうまく連携を図りながら盛り上がっていければ面白いかなと思っております。

最後になりますが、今回の事例発表につきまして、真庭市の事例が広域連携を積極的に推進しているということが評価されたということで本日参っているわけですが、先ほど申しました2日間にわたるイベント開催となりましたら、さらに高い評価になるのではないかと勝手に思っております。岡山県におかれましては、人的支援、物的支援などいろいろありますが、特に財政面でのご支援をいただければ有り難いと思っております。このことは市長から直々に言われて参っておりますので、岡山県の皆さまには特によりしくお願いいたします。

ちゃんとお伝えしまして、本日の事例発表を締めさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

